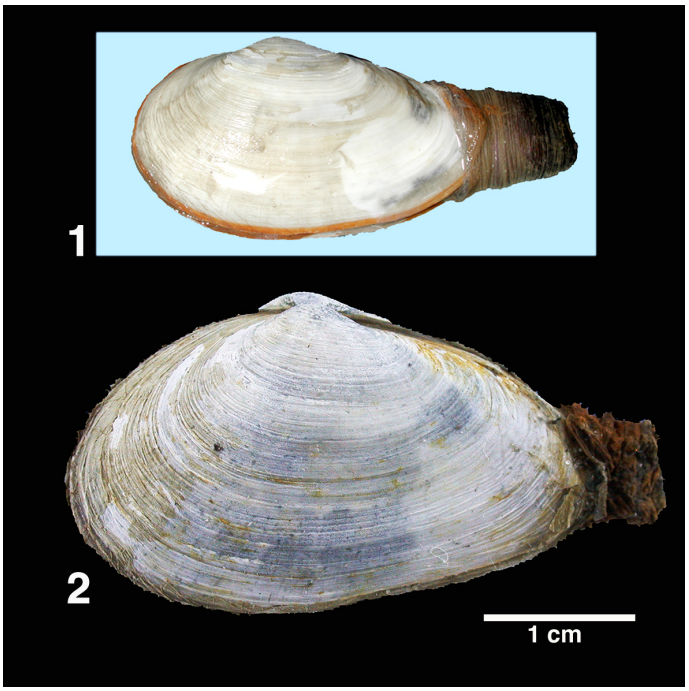
オオノガイ　*Mya arenaria* Linnaeus

【選定理由】

本種は内湾奥部の泥干潟に深く潜って生息する。県内でも干潟という生息環境自体が護岸工事や埋め立てで著しく減少しているので、本種の生息地、個体数とも著しく減少したと考えられる。本種は現在でも汐川干潟（藤岡・木村, 2000）、一色干潟などの三河湾奥部に健全な個体群が残っている。本種は太い水管が食用となり、現在でも自家消費的に採集されている。将来的に絶滅危惧に移行する危険性がある種と評価された。



1: 蒲郡市三谷地先人工干潟, 2005 年 7 月 21 日, 2: 名古屋市藤前干潟, 2008 年 10 月 9 日, 木村昭一採集

【形　態】

殻長約 10 cm と殻は大形であるが殻質は薄く脆い。殻は長い卵形で、後端は細くなり両殻は開く。殻は白色から灰白色で、生きている時には殻の一部は、淡褐色の薄い殻皮で覆われる。

【分布の概要】

【県内の分布】

上述したように、生息場所、個体数が減少している。

【世界及び国内の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、国内では北海道～九州まで分布する（木村・山下, 2012）。

【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述したような干潟の環境は悪化しているので、本種の生息場所、個体数とも減少したと考えられる。

【保全上の留意点】

内湾の潮間帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

【特記事項】

レッドデータブックなごや 2010（木村, 2010）では、本種と正しく同定された藤前干潟産生貝標本（図 2）が図示されていたが、レッドデータブックなごや 2015（木村 加筆 川瀬, 2015）では北海道根室市産の別種キタノオオノガイ *Mya uzenensis* Nomura & Zinbo が図示されているので、ここに訂正する。

【引用文献】

藤岡えり子・木村妙子, 2000. 三河湾奥部汐川干潟の 1998 年春期における底生動物相. 豊橋市自然史博物館研究報告, 10: 31–39.
木村昭一, 2010. オオノガイ, p. 219. in：レッドデータブックなごや 2010（2004 年版補遺）, 316pp. 名古屋市環境局.
木村昭一・山下博由, 2012. オオノガイ, p. 167. in：日本ベントス学会（編）干潟の絶滅危惧動物図鑑 - 海岸ベントスのレッドデータブック, 285pp. 東海大学出版会, 秦野.
木村昭一 加筆 川瀬基弘, 2015. オオノガイ, p. 465. in：レッドデータブックなごや 2015　動物編, 503pp. 名古屋市環境局.

（木村昭一）